

学生の授業時間外の英語学習時間の増大と英語力の向上

ロブ トーマス・京都産業大学

加野 まきみ・京都産業大学

連絡先: 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山・

Tel: 075-705-1680・Email: trobb@cc.kyoto-su.ac.jp

Tel: 075-705-1659・Email: makimik@cc.kyoto-su.ac.jp

1. 教育改善の目的

急速なグローバル化の中、学生に高度な英語運用能力を身につけさせることは大学の急務となっている。京都産業大学ではこうした社会的ニーズに応えるため、全学共通教育センターが運営する英語教育カリキュラムの大幅な改革に努めてきた。その一つが、学生一人一人が授業時間外に多読という反復練習を行い、授業時間で学んだ新語彙・文法を定着させる「多読学習プログラム」である。本プログラムの目的は、学生が授業時間外に英語を自習するシステムを確立し、現在決定的に不足していると言われる授業時間外の学習時間を確保すること、また、学生の自律的な学習を促進し、自分で学ぶという意識を身につけさせることである。

2. 問題の所在

TOEIC スコアが 350 点の学生が 1 点スコアを伸ばすためには、平均 1.5 時間の学習が必要であると言われる。つまり、100 点スコアを伸ばすためには 150 時間の「質の高い」学習時間が必要である。たいていの大学生は最大でも一年で 180 時間 (90 分授業を 4 コマ、30 週) の授業を受けるが、残念ながら授業時間の多くは純粋に「質の高い」学習とは言えず、多くの場合、一年間で 100 点スコアアップには至らない。その上、学生の英語力が高ければ高いほど、1 点をのばすために必要な時間はさらに多くなる (例えば、TOEIC550 点レベルの学生は 100 点伸ばすのに 250 時間が必要)。

我々は、このジレンマを解決するのは授業時間数の増加ではなく、授業時間外の学習の増加であると考え。授業時間にプラスする学習時間としては、多読学習法を用いることが非常に優れた方法である。言語習得の為に多読学習が効果的であることは広く認められているが、残念ながら、それを導入している教育機関は非常に少ないというのが実状である。多読学習とは、個人の実際の英語力よりもやや低いレベルに設定された英語のグレーディッド・リーダーと呼ばれる、レベル別に調整された語彙・文法で書き直された小説の簡略版 (以下リーダーという) を多く読むことである。授業では新しい語彙・文法を学習するが、それを定着させなければ、実際の英語力のアップには繋がらない。定着のためには、その語彙・文法に繰り返し触れることが必要で、自分のレベルと関心の度合いに合致した英語リーダーを大量に読破することで、既習の文法や単語を習得することができるのだ。

学習時間外での学習を課す際に常に問題となるのは、学生が実際に課題をこなしたかどうかをチェックする体制である。どのようにすれば学生の学習状況を確認することができるのか。多読学習法の効果が広く認められているにもかかわらず、導入をする教育機関が少ないのはまさにこの点がネックになっているのだ。従来であれば担当教員が学生が実際にその本を読んだことを証明させるために要約や感想を書かせる方法がとられていたが、提出された課題をチェックするのは教員にとって時間的に大きな負担となり、諦めてしまうケースが多いのである。

3. 教育改善の内容と方法

上述の問題の解決策として、本学では

MoodleReader という、ムードル上で学生の多読記録を管理するプログラムを開発した。ムードルは誰でも無料でダウンロード・使用できる学習支援ソフトウェアで、MoodleReader はムードルの追加モジュールとして開発された。教員はあらかじめ、学生のレベルや目標語数を設定し、学生は図書館に開架されているリーダーを読み、学内あるいは自宅からムードルにアクセスして 10 問からなるテストを受ける。テストに合格すれば、その本が既読書として記録され、本の表紙が学生のページに現れ、既読語数に加算される仕組みになっている。MoodleReader は、学生にとって難しすぎる、あるいは簡単すぎる本を読まないように、学生毎に設定されたレベルにあったテストのみを受験可能とするように制御されている。テストには制限時間が設けられているので、まず本を読んでからでないと合格することは難しい。一つのテストを受けてから次に受けられるまでの間隔が設定されているので、学期末に目標語数に達するために集中して読むのではなく、学期中継続的に読書を進めることになる。図 1 はテストの受験日、読んだ本のタイトル、合否、既読語数などが表示される、学生の学習記録画面である。

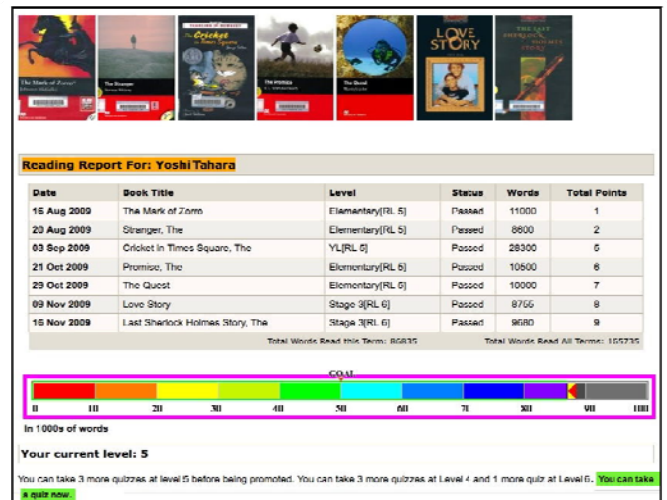


図 1 学生の記録画面

このプログラムには学生が自力で多読学習を行うための不正行為防止機能が組み込まれている。問題は複数ある中から毎回ランダムに出題されるようになっており、さらに同時時間帯に同一 (あるいは隣接する) コンピュータで同じリーダーのテストを受けた場合には不正行為の可能性があると自動検出する機能がある。また、学生がテストを受ける上で問題が生じた場合は、ムードル上に設けられているヘルプページから問題を報告することができ、次の授業時に担当教員に相談するまで待たずに学習を続けられる。

教員用の管理画面では学生の学習状況を把握するための様々な機能がある (図 2)。個々の学生やクラス毎の学習状況を閲覧できるだけでなく、学生の読むリーダーのレベルの変更、目標語数の設定、テスト問題の追加・ダウンロードなど、教員自身が担当クラスについて様々な設定を行えるようになっている。

Menu:
Student Management
<ul style="list-style-type: none"> • Summary Report by Student • Full Report by Student • Summary Report by Class Group • View and Delete Attempts • Change Students Levels and Promote • Send Message • Award Extra Points
Quiz Management
<ul style="list-style-type: none"> • Add course quizzes to reader quizzes. • Download quizzes from the Reader Quiz Database. • Set goal

図2 教員用管理画面

これにより、学生は授業時間外の英語学習時間が確保され、教員は最低限の負担で学生の学習状況を把握することが可能となった。

2008年度に本学外国語学部英米語学科で MoodleReader プログラムを導入したところ、学生の授業時間外学習量の確保に大きな効果を発揮したことから、2009年度は全学共通教育科目の約140のコア科目（オーラル・コミュニケーション、リーディングスキル、各週2回授業）で、授業時間外に MoodleReader を使って多読学習を行うことを必修とした。多読学習の目的、読破目標語数、テストを受けるサイトへのアクセス方法、テストの受け方を記載した資料を、すべてのクラスで担当教員が学生に配布し、授業時間外で学習を進めることを促した。教員は学生の進捗を常に把握する責任を負うわけではないが、多くの教員が授業中に積極的に多読プログラムの利用を学生に呼びかけた。すべての教員は学期末に学生の学習状況を受け取り、それを最終成績に組み込んだ。

4. 改善成果

2010年2月には、コア科目履修者（一年次生）ほぼ全員を対象に学年度末の統一試験を行った。前年度同時期の同一のテストと結果を比較すると、履修者全体では12.1点から15.7点へと平均点が上がり、どの学部においても前年度より読解力のスコアに有意な向上が見られた（図3）。2008年度と2009年度の入学生はプレイスメント・テストのスコアなどから、入学時の英語力に有意な差がないことがわかっており、カリキュラム上の変更もなかったことから、このスコアの向上は多読学習の導入によるものと考えられる。

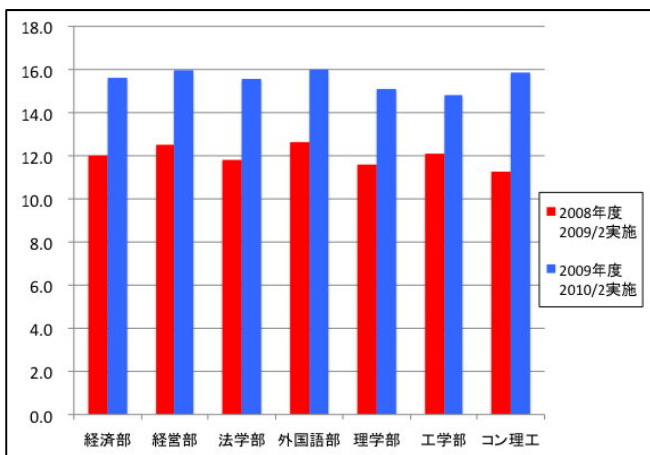


図3 学年末の統一試験の結果

学期末に行った学生対象の自分の多読学習経験についてのアンケート（約1300人が回答）によると、「かなり易しい」、「かなり難しい」と答えた学生はわずか10%以下であった。67.3%の学生が多読学習を面白いと感じていた。この結果より、多読学習を進めるにつれて、多くの学生が自分のレベルにあった英語で書かれた本を読むのは楽しいと認識していることがわかる。

図書館では指定図書の新し出しが前年度の5倍にも伸びた（図4）。

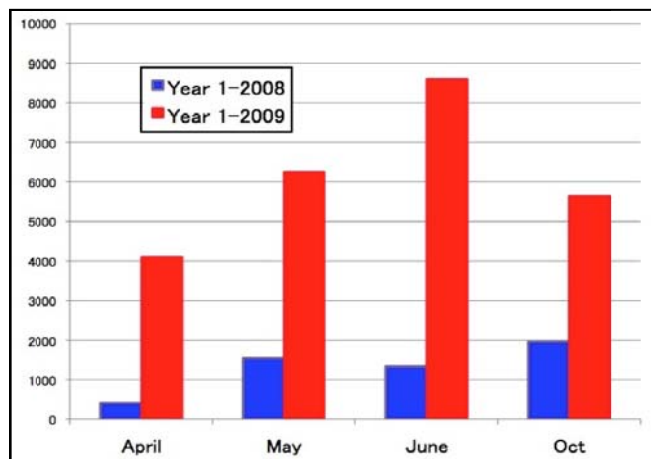


図4 一年次生による指定図書の利用状況

このプログラムの有効性は、学内にとどまらず広く認められ、現在では国内外を含め50校以上の教育機関が本学で開発した MoodleReader を導入している。

5. 今後の課題

2010年2月の統一試験の結果では、リスニングのスコアには有意な向上が見られなかった。これは、現行の多読学習プログラムはあくまで「読む」ことに重きを置いているためだと思われる。現在利用可能なリーダーの中にはCDが付属しているものも多くあるので、今後リスニング問題をテストに組み込み、それらを活用した「多聴」プログラムの開発が望まれる。また、本プログラムでの学習が成績の一部に組み込まれるにもかかわらず、多読学習を全く行わなかった学生は、残念なことに43%にも及んだ。より多くの学生が本プログラムに取り組み、さらなる効果を上げるためには、多読学習の成績に占める割合を引き上げることを検討する必要がある。教員にこれまで以上の本プログラムへ積極的な関与を求め、学生へ働きかけることも必要である。

現在は教員で解決できない問題が生じた際、サイト管理者が問題の解決に当たっているが、利用機関が増えるにつれて、サイト管理者への負担が増大しており、今後は教員サポートのための新たな体制を整える必要がある。今後さらに多くの教育機関にこのプログラムを利用してもらうためには、各機関が所属学生を一括して登録できるような機能や、今まで以上に使いやすいインターフェースの開発が望まれる。

謝辞

本研究は科学研究費 基盤(C)(課題番号: 21520606)および本学総合研究支援制度の助成を受けたものである。MoodleReader に組み込むテスト問題の開発に多大な時間と努力を傾注していただいた、本学英米語学科のクラフリン・マシュー、ギリス・アマンド、ヒーリー・サンドラの各氏、および問題作成に携わったすべての方に、ここに感謝の意を表したい。